

聖書的世界観の構築



ルカの福音書6:47~49

6:47 わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行なう人たちがどんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。

6:48 その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せたときも、しっかり建てられていたから、びくともしませんでした。

6:49 聞いても実行しない人は、土台なしで地面に家を建てた人に似ています。川の水が押し寄せると、家は一ぺんに倒れてしまい、そのこわれ方はひどいものとなりました。」

土台造り

外観の造りや成果より、もっと大切なものがある。それは土台造りである。

土造り

マタイ13:8 別の種は**良い地**に落ちて、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結んだ。

農家にとって「土は命」「土は宝もの」である。農作物は適当に選んだ、その辺りにある土では、ほとんどの場合育ちは悪く、見た目も中身も納得いく作物は出来上がらない。農作物にとって土は、まさに土台であり、命なのである。何かの農作物を作りたいのなら、その作物に適した土から作る必要がある。

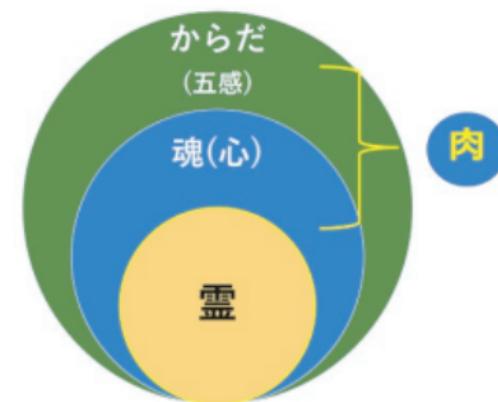
聖書的世界観の構築は 祝福された人生の土台造り

聖書的世界観、聖書的価値観の構築は、実り多い祝福された人生の土台造りである。環境に支配される人生から環境を支配する人生への転換となる。

霊・魂・体

1 テサロニケ5:23 主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの**霊**、**たましい**、**からだ**が完全に守られますように。

- ① 「**霊**」は「ホ・プニューマ」(ὁ πνεῦμα)
- ② 「**たましい**」は「ヘー・プシケー」(ἡ ψυχή)
- ③ 「**からだ**」は「ホ・ソーマ」(ὁ σῶμα)



「**霊**」が健全に機能している場合は、「たましい」は「**霊**」によって支配されて神のいのちの統制下のもとに置かれるが、「**霊**」が機能不全を起こしている場合には「**からだ**」からもたらされる情報(五感)によって「たましい」は大きく影響を受けるのである。

この世の富に仕えるか キリストに仕えるか

ルカ9:25 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得がありません。

この世的な損得や常識に価値を置くことほどむなしいことはない。私たちのために十字架に付かれ死んで葬られ復活し昇天され、今は天で私たちのためにとりなし祈っておられるキリストの価値観に焦点を置いて生きるのがクリスチャンである。

マタイ6:24 だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。

良い働きのために 聖書が必要

2テモテ3:16~17 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。

聖書的価値観によって、神のみこころに生きるためには、聖書によって訓練されることが必要である。自立したクリスチャンとして、聖書は聖書によって解釈される、文脈的に理解するという聖書解釈の原則によって、神のみこころを知ることができるよう自分自身を訓練することが重要である。

ローマ12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

神さまの恵みをはばむもの

- ①サタン
- ②罪
- ③世界観

世界観

神とは
キリストとは
聖霊とは
人とは
聖書とは
教会とは
礼拝とは
牧師とは
伝道とは
キリストの体とは
弟子づくりとは
神さまとの関係は
人との関係は

本質を追求し本質に生きる

伝統に生きるのではなく、本質を追求し本質に生きることが重要。